

第5期 報告書 (上半期)

平成21年4月1日▶▶▶平成21年9月30日

B U S I N E S S R E P O R T 2 0 0 9



CONTENTS

● 株主の皆様へ	1
● 事業の概況	2
● セグメント情報	3
● トピックス	5
● 四半期連結財務諸表	6



株式会社バンテック



代表取締役社長
山田 敏晴

経営理念

わたしたちバンテックグループは、世界の陸・海・空を結ぶグローバルな物流業務を展開し、常に新しい付加価値を創造することによって、社会・経済の発展と人々の豊かな生活に貢献します。

経営方針

わたしたちバンテックグループは次のような企業像を目指しております。

1. 収益力が高く、常に成長、進化を続ける。
2. 現場力と技術力を磨き、質の高いサービスでお客様の信頼と満足を獲得する。
3. グループの総合力を活かす。
4. 得意分野を活かし、自動車部品物流ではグローバル市場でのブランドを確立する。
5. 人を活かし人材を育てる。
6. 健全で良き企業市民となる。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第5期報告書（上半期、平成21年4月1日～平成21年9月30日）をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今日、物流業界を取り巻く環境を見ますと、アジアを中心に緩やかな回復傾向を示しておりますが、欧米では低迷が続き、また、国内につきましても回復移行期にあるものの、厳しい経営環境に直面しております。

このような状況のなか、本年4月1日の中核事業会社3社の統合を機に、合理化の徹底によるコスト削減等を図り、利益を生み出せる体制の構築に取り組んでまいりましたが、業績につきましては、前年同期に比べ減収減益となりました。

しかしながら、コスト削減が奏功し、第2四半期（7～9月）において黒字転換を果たし、第1四半期（4～6月）での赤字を吸収し、上半期においては、期初予想を上回る実績となりました。

未だ事業環境の回復が不透明のなか、今後も徹底した変動費・固定費の合理化への取り組みによるコスト削減を図り、企業価値の向上に努めるとともに、高い倫理観に基づくCSR（企業の社会的責任）の実現に邁進する所存でございます。

株主の皆様におかれましては、従来と変わらぬ一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年秋以降から続く世界経済の大幅な減退から最悪期を脱し、生産・輸出などに持ち直しの動きがあるものの、雇用情勢や所得環境などの実体経済は依然として厳しい状況で推移いたしました。

物流業界において、国際貨物輸送については、アジアを中心に緩やかな回復傾向を示しておりますが、欧米では輸送需要の低迷が続いております。また、国内貨物輸送についても、生産水準が回復移行期にあるものの、厳しい経営環境に直面しております。

このような状況下、当社グループは中核会社3社の統合を機に、合理化の徹底によるグループ全体に亘るコスト削減及び収益構造並びに営業体制の抜本の見直し等により、利益を生み出せる体制の構築に引続き取り組んでまいりました。その結果、コスト削減が奏功し、第2四半期連結会計期間において黒字転換を果たし、第1四半期連結会計期間での営業赤字を吸収し、第2四半期連結累計期間においては、期初予想を上回る実績となりました。

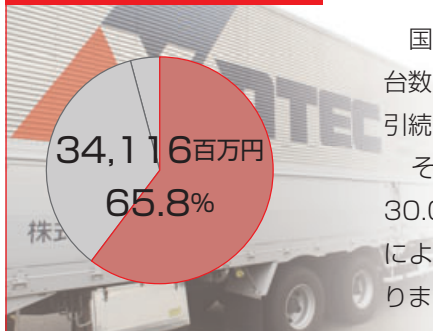
当第2四半期連結累計期間の業績は、国内物流事業においては自動車業界での回復の動き、また、国際物流事業における欧米向け輸出貨物に下げ止まり感もありますが、未だ回復力が弱く、連結売上高については、前年同期に比べ288億1千4百万円、35.7%減収の518億2千9百万円となりました。

連結営業利益については、固定費及び変動費の合理化に取り組みましたが、大幅な減収の影響により、前年同期に比べ20億1百万円、68.8%減益の9億8百万円となりました。

連結経常利益については、前年同期に比べ21億7千万円、68.5%減益の9億9千8百万円、また、連結四半期純利益については、特別利益として訴訟和解金等がありましたが、前年同期に比べ13億5百万円、63.2%減益の7億5千8百万円となりました。

事業の種類別セグメント

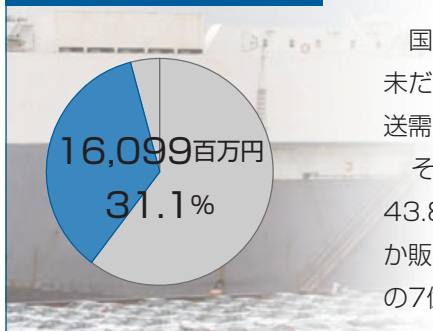
国内物流事業



国内物流事業については、既存主要顧客の自動車生産台数及び輸出船積台数に、回復の基調も見えてきましたが、未だ本格的な回復に至っておらず、引続き厳しい状況で推移いたしました。

その結果、当事業の売上高は前年同期に比べ146億2千6百万円、30.0%減収の341億1千6百万円、営業利益については、大幅な減収影響により前年同期に比べ17億8千2百万円、95.0%減益の9千2百万円となりました。

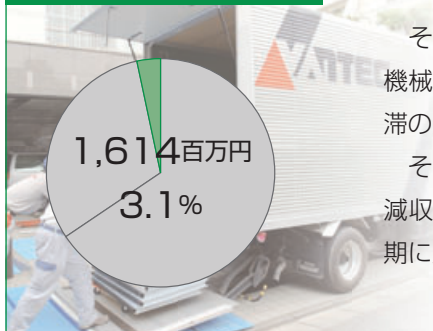
国際物流事業



国際物流事業については、日本発着航空貨物が回復傾向にありますが、未だ不安定で低水準に推移し、また、景気の停滞を背景とした欧米での輸送需要低迷の影響を引続き受けました。

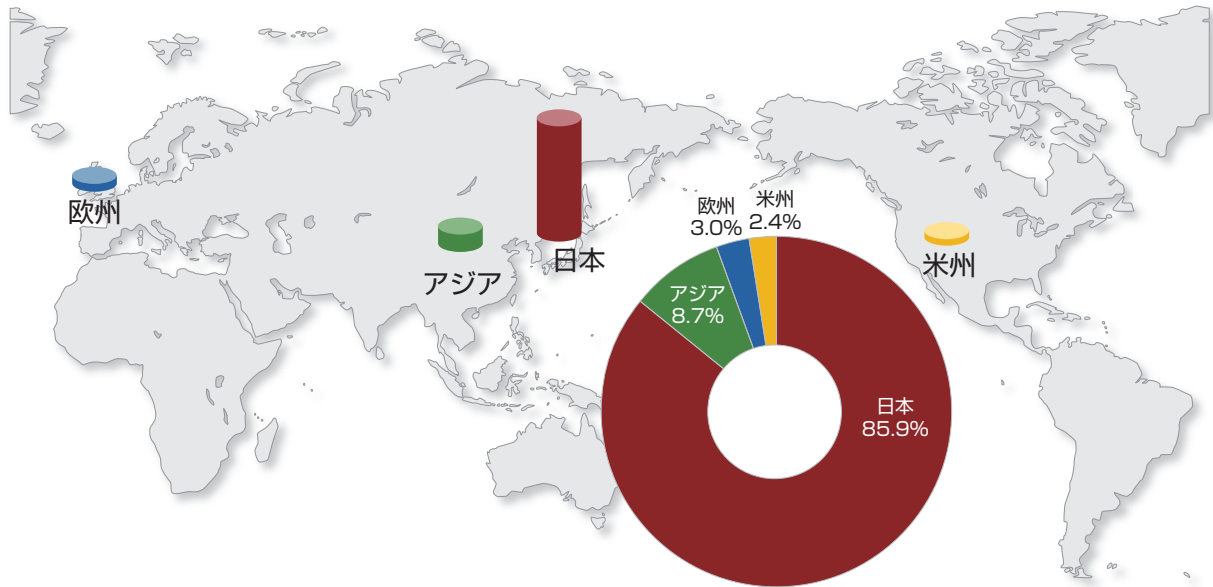
その結果、当事業の売上高は前年同期に比べ125億5千3百万円、43.8%減収の160億9千9百万円、営業利益については、大幅な減収のなか販売管理費の削減を図り、前年同期に比べ1億5千7百万円、17.0%減益の7億7千万円となりました。

その他の事業



その他の事業については、厳しい競争環境のなか、重量物の運搬、設備機械の解体撤去作業、企業向け引越事業等の拡販に努めましたが、景気停滞の影響を受け、受注減となりました。

その結果、当事業の売上高は前年同期に比べ16億3千4百万円、50.3%減収の16億1千4百万円、営業利益については、減収影響により、前年同期に比べ6千2百万円、58.4%減益の4千4百万円となりました。



所在地別セグメント

日本
44,535百万円

日本につきましては、主要顧客の自動車生産台数及び輸出船積台数、また、日本発着航空貨物の低迷の影響を引続き受けました。

その結果、売上高は前年同期に比べ221億5千9百万円、33.2%減収の445億3千5百万円、営業利益については、大幅な減収影響により、前年同期に比べ16億1千5百万円、68.3%減益の7億4千8百万円となりました。

欧州
1,569百万円

欧州につきましては、世界景気の減速を背景とした自動車関連等の生産及び在庫調整の影響のなか、人員の効率化等の経費削減に努めましたが、引続き厳しい状況で推移いたしました。

その結果、売上高は前年同期に比べ25億4千8百万円、61.9%減収の15億6千9百万円、営業損益については、減収により、前年同期に比べ3億7千7百万円減益の、3千4百万円の赤字となりました。

米州
1,210百万円

米州につきましては、金融危機を背景とした需要後退による、企業業績の悪化、厳しい雇用環境、また、消費不振等による影響のなか、拠点の集約化、人員の効率化等に取組みましたが、引続き厳しい状況となりました。

その結果、売上高は前年同期に比べ7億4千5百万円、38.1%減収の12億1千万円、営業損益については、減収影響により、前年同期に比べ6千5百万円減益の、3千万円の赤字となりました。

アジア
4,513百万円

アジアにつきましては、中国での自動車部品等の堅調な動きもありましたが、未だ不安定な回復傾向の影響を受けました。

その結果、売上高は前年同期に比べ33億6千1百万円、42.7%減収の45億1千3百万円、営業利益については、減収のなか経費削減を図りましたが、前年同期に比べ1千6百万円、7.2%減益の2億8百万円となりました。

1. 福岡県京都郡苅田町に「バンテック九州第4物流センター」を新設

バンテックグループ最大規模の物流センターが誕生

当社は、自動車生産の集積地である北部九州地区における自動車部品物流の需要増に対応するため、昨年7月に白石工業団地に用地を取得し、建設を進めていたバンテック九州第4物流センターを2009年6月に稼働いたしました。

苅田地区は中期的に部品メーカーのさらなる集積やアジアを中心とする海外拠点との物流の活発化が予想されています。

同センターは、当社の運営するセンターとしては最大規模であり、社運をかけた明日へのチャレンジの象徴として、グループを挙げて物流付加価値の創造を目指し、お客様が喜ばれるサービス提供を目的としております。

同センターの延床面積は約51,000平方メートル。採光方法を工夫し、CO₂排出削減の環境対応を行っております。



2. 埼玉県比企郡嵐山町に「バンテック武蔵嵐山物流センター」を新設

埼玉・群馬地区の物流拠点10カ所を集約

当社は、グループ企業のバンテックゼットロジが大手自動車部品メーカー向け運営を目的とした、バンテック武蔵嵐山物流センターを2009年7月に稼働いたしました。

同センターの開設にあたり、埼玉・群馬地区に点在していた物流拠点10カ所を集約し、効率化を図りました。

同センターの延床面積は約37,000平方メートル。関越自動車道嵐山小川ICから約5分とアクセスも良く、バンテックグループ最新鋭の物流センターとして、これまで培ったノウハウと先進設備を生かしたセンター運営で、さらなる業務拡大を目指しております。



■ 四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (平成21年9月30日現在)	前期末 (平成21年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	31,816	31,152
固定資産	34,315	33,658
有形固定資産	24,912	24,200
無形固定資産	4,175	4,150
投資その他の資産	5,227	5,307
繰延資産	37	47
① 資産合計	66,169	64,858
負債の部		
流動負債	25,701	24,675
固定負債	17,140	17,622
② 負債合計	42,842	42,297
純資産の部		
株主資本	23,861	23,474
資本金	3,853	3,851
資本剰余金	13,771	13,769
利益剰余金	7,491	7,090
自己株式	△1,253	△1,236
評価・換算差額等	△980	△1,369
その他有価証券評価差額金	21	12
為替換算調整勘定	△1,002	△1,382
少数株主持分	446	455
③ 純資産合計	23,327	22,560
負債純資産合計	66,169	64,858

■ 四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 (累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前第2四半期 (累計) (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)
売上高	51,829	80,644
売上原価	44,310	69,719
売上総利益	7,518	10,924
販売費及び一般管理費	6,610	8,014
営業利益	908	2,910
営業外収益	240	415
営業外費用	150	156
経常利益	998	3,169
特別利益	263	20
特別損失	168	37
税金等調整前四半期純利益	1,093	3,152
法人税等	345	1,055
少数株主利益	△10	31
四半期純利益	758	2,064

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 (累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前第2四半期 (累計) (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,507	105
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,596	△1,741
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△62	△1,002
現金及び現金同等物に係る換算差額	289	△154
現金及び現金同等物の増減額	137	△2,792
現金及び現金同等物の期首残高	11,292	14,463
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加高	33	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,463	11,670

Point

① (資産合計)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、受取手形及び売掛金、有形固定資産等の増加により前連結会計年度末に比べ、13億1千万円増加の66億6千9百万円となりました。

② (負債合計)

負債合計は、支払手形及び買掛金等の増加により前連結会計年度末に比べ、5億4千4百万円増加の42億8千2百万円となりました。

③ (純資産合計)

純資産合計は、利益剰余金等の増加により前連結会計年度末に比べ、7億6千6百万円増加の23億2千7百万円となりました。

④ (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、増加した資金は、15億7百万円となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益10億9千3百万円、減価償却費7億3千8百万円、仕入債務の増加額9億6千7百万円等の増加要因、売上債権の増加額9億4千7百万円等の減少要因によるものです。

⑤ (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、減少した資金は、15億9千6百万円となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出13億2百万円等によるものです。

⑥ (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、減少した資金は、6千2百万円となりました。この主な要因は、短期借入金金の純減額11億4千万円、配当金の支払額3億5千7百万円等の減少要因、長期借入れによる収入15億円等の増加要因によるものです。

■ 会社概要 (平成21年9月30日現在)

社 名 株式会社バンテック
 VANTEC CORPORATION
 本社所在地 〒220-0022
 神奈川県横浜市西区花咲町六丁目145番地
 横浜花咲ビル
 TEL : 045-410-1741 / FAX : 045-312-2537
 http://www.vantec-gl.com/
 設 立 平成18年3月1日
 資 本 金 38億5千3百万円
 従 業 員 数 1,136名 (グループ従業員数 5,163名)

■ ホームページのご案内



当社ホームページをご覧ください。
<http://www.vantec-gl.com/>

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～3月31日
 定時株主総会 毎年6月中
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 剰余金配当の基準日 3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 公告方法 当社ホームページに掲載します。
 (http://www.vantec-gl.com/)
 ただし、事故その他やむを得ない事由によっ
 て、電子公告による公告をすることができな
 い場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
 上場取引所 東京証券取引所 市場第一部

郵便物送付先
 お問い合わせ先

■ 株式の状況 (平成21年9月30日現在)

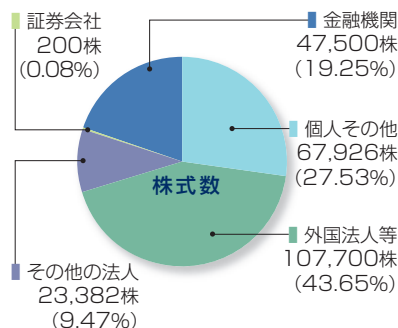
発行可能株式総数 800,000株
 発行済株式の総数 246,708株
 株主数 8,069名

● 大株主

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
エフ ビー エフ2000、エル、ビー	62,493	26.3
エム エイチ キャピタル パートナース ツー、エル、ビー	34,661	14.6
伊藤忠商事株式会社	10,937	4.6
株式会社みずほ銀行	10,750	4.5
奥野 信亮	5,210	2.2
株式会社横浜銀行	5,015	2.1
東京海上日動火災保険株式会社	4,000	1.7
株式会社損害保険ジャパン	4,000	1.7
バンテックグループ従業員持株会	3,920	1.6
大和ハウス工業株式会社	3,534	1.5

(注) 1. 発行済株式の総数には、自己株式8,829株を含んでおります。
 2. 持株比率については、自己株式を控除して計算しております。

● 所有者別株式分布状況



	証券会社に口座を お持ちの場合	特別口座の場合
郵便物 送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問 い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	お取引の証券会社になります。	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用下さい。	単元未満株式の買取・買増以外の株式売買は出来ません。電子化前に名義書換を先念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡下さい。

